



おちほ

第88号 平成29年7月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>



開寮記念日



今年も落穂寮67回
 目の開寮記念のお祝いを多
 目的ホールで行いました！利用
 者さん、職員合わせて80名近くの
 人数で開催されました。
 はじめに施設長より挨拶があり、
 勤続25年になる事務所の小出st、勤
 続15年になる炊事の中藪st、勤続5年
 になる女子棟の松宮st、勤続5年にな
 るホームの倉橋st、4名の落穂寮を支
 えてくれている方々が表彰されまし
 た。その後、新たに介護福祉士の資格
 を取得した職員のお祝いもありました。
 表彰の後はいよいよお待ちかねの昼食
 タイム！今回のメニューは山芋とねぎト
 口の丼、木の芽和え、サラダ、すまし汁、
 オレンジでした。みんなで「いただきま
 すー」の挨拶を行うと瞬間にお皿の上
 のご馳走が無くなり、あっという間に完食
 されていました。最後はみんなで「ごちそ
 うさまでした！」と挨拶を。お炊事の皆さ
 ん、美味しいご飯をありがとうございました。今
 年もおみんなで祝いできて本当に良かつ
 たです。

やさしさの湧水

理事長 山下陽一

相模原事件

二〇一六年七月二六日の深夜、神奈川県知的障がい者施設に元施設職員が侵入し、居室に寝ていた無抵抗な利用者を次々と刺殺し、死者一九人、重軽傷者は二七人に達するという殺人事件が起きました。事件の全容はまだ明らかにされていませんが、その異常さは戦後の犯罪では最悪といわれるほどの残忍な仕事となっています。容疑者の植松は過去にこの施設で働いていたこともあり、易々と侵入し、計画したことを躊躇なく確実に挙行したのでしょう。犯行直後、容疑者は警察に出頭しています。ゆるぎない確信に基づき凶行だったのでしょうか。

ゆがんだ信念

植松容疑者は施設（津久井やまゆり園）に非常勤の職員として採用されましたが、採用翌年度四月に常勤職員として採用され、ほぼ三年間勤務していました。しかし採用後、利用者に対して暴行や暴言をくりかえし、勤務中に重度の障がい者に安楽死を容認するなどの主張に対し、施設職員に「ナチスドイツとおなじだよ」といわれたようですが、本人は

障がい者の生命に価値はないという主張を改めるとことはなかったということでした。施設側はそれらの危険な確信をしていることから警察に通報し、警察は「他人を傷つける恐れがある」として相模原市長に通報、緊急措置入院が決定されました。

ナチスによるユダヤ人排除は、戦争にむかって国民意識を高揚させるためにとった政策でこれが国家統一への大きな求心力となって体制を厚く支えることになっていました。「仲間」の広がりや自分の位置を確かにするために「敵」が必要でした。しかも、自分がしっかり保てない人ほど、この穴ばかりにはまりやすい。

植松容疑者はきわめて狭い自分を標準にして、周囲に対して排他的になり、短絡的な排除のための荒唐無稽な作戦行動を取ったといえるでしょう。容疑者の思考と行動をみたとき、自分の持つ価値観には周囲の人たちの考え方や意見が全く彼自身のなかに入らない状態になっているようです。

アイヒマン裁判について、ハンナアーレントは「彼自身のユダヤ人への憎悪はあったわけではなく、組織に属する官吏として、粛々と「人」を抹殺処分した、という見解を示しています。

しかし、植松容疑者は違っていました。施設利用者に激しい憎悪をいだいていました。アイヒマンではありませんでした。彼には人として何か大きな欠陥があったのかもしれない。何者かしれない強烈な確信がその背景にあるとしたなら、このような事件を防ぐことができたかどうかという疑問のこりります。

芽生えるのはこのように井戸水をくみあげることと同じように、ポンプを呼び水で満たさなければならぬのです。

『自覚者が責任を持ちます』

少し長くなりますが、是非紹介したいとおもいます。糸賀一雄先生がお亡くなりなる前年、一九六八年、東京で開いた「夜明け前の子どもたち」の上映会の挨拶のなかで、

「……この映画を、ご覧くださいまして子どもたちの共感の世界を味わってくださいました皆さま方が、こういう世界に対する自覚者になっていただきたいと思うわけでございます。

自覚者になる、こういう世界のことを自ら覚る、自覚する。しかし、自覚するということは責任を負うということでございます。日本の国に本当に輝きがいりますように、世界が本当に平和と喜びに満ちますように、自覚者が責任をもちます。……」

植松容疑者は人と人の間柄において相互に「思いやり」のところが崩壊しているようにみえるのですが、この傾向は差こそあれ私たちが一般にかかえている問題として考えなければなりません。弱い立場の人たちへの「やさしさ」はここからこころへ移入する手立しかないうちに思えます。ちょうど隣同士のコンピューターに同じ機能を働かせようとする、同じアプリをダウンロードしなれない機能しないのと同じようなことではないかと思えます。相互に質として同じものが必要です。しかし、ダウンロードしようとしてもその間に障壁があった場合や、あいつの機能が壊れている場合はダウンロードできません。「やさしさ」が

人たちにに対して排他的になっていることを戒め「この子らを世の光に」という言葉に象徴されているのですが、「自覚者の責任」この思想は政治的スローガンだけではなくて、ひとが生きていくうえにおいて、自覚者として絶えず問いつけることにより、僅かずつ静かに自己に自分のもととして取り込むことできるものとされたものでしょう。先生は平和と喜びにみだされることを祈り、自覚者としてお誓いになったのです。

やさしさのダウンロード

「これからの地域福祉」

寮長 太田 正 則

平成二十九年度が始まりました。これまで迎えていた新年度とは違い、社会福祉法人制度改革後、最初の年度となります。この制度改革は、社会福祉法人の経営原則である社会福祉法第二四条「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確

職員採用がままならず、構想の段階で止まっている状態です。そのような中ですが、これまでの事業内容について、紙面上では財務諸表の公表しかしてこなかったため、透明性の確保の意味も込めて事業実績報告をしたいとおもいます。

平成二十八年度落穂寮事業報告

生活介護事業（現員 五四名）

平均年齢 四〇歳十月

開所日数 二六九日

利用率 九五・八%

平均障害支援区分 五・五七

施設入所支援事業（現員五〇名）

平均年齢 四三歳一月

開所日数 三六五日

利用率 九八%

平均障害支援区分 五・六二

短期入所事業（定員五名）

開所日数 三六五日

利用者延人数 五七二人

居宅介護事業

提供延時間 三三六四時間
行動援護事業
提供延時間 一二七七時間

主な事業の利用状況ですが、入所支援事業においては、平成十二年に児者転換したことから、平均年齢は四〇歳代ですが障がいのあるから、生命維持機能や身体機能の低下が顕著に表れる方もおられ、支援の困難さを痛感しているところ

生活介護事業では、元気いっばいの二〇歳代の方との活動量が合わず、一人一人に合わせた活動を提供するために職員配置を工夫していますが、十分とは言えない状況です。

短期入所事業は、在宅生活者には欠かせない事業ですが、利用者・養育者共に高齢化が課題となっており、緊急利用が増加しています。いざという時のセーフティーネットの役割も持っているのですが、いつでもどうぞという体制が取れているわけではありません。ご期待に沿えないことも多いかと思

ますが、ご容赦ください。
在宅生活者をサポートするもう一つの事業が居宅介護事業になりますが、これも職員の確保が難しく多くの利用は受けられていません。制度のはざままで必要な支援が

届けられていないところに届けることを目的として始めた事業ですが、歯がゆい思いです。冒頭でお話した社会福祉法第二四条が実践されているのかと言われれば、「确实、効果的かつ適正に」は行っていない状況です。

国は、今の日本の現状を「少子高齢化・人口減少」「地域の存続の危機」「課題の複合化・複雑化」「社会的孤立・社会的排除」「地域福祉力の脆弱化」と認識し、その対策として、地域住民が「我が事」として地域の課題を意識し、暮らしを「丸ごと」支える体制を住民と公的支援が協働して進めていく事を地域福祉計画に掲げています。支える側と支えられる側に分かれるのではなく、お互いに補い合いましよという事でしよう。これからの社会福祉法人の役割は、直接サービスを提供するだけでなく、この協働の体制づくりも担うこととなります。

当法人の理念

「明日の笑顔につながる支援」を、

「明日の笑顔につながる声かけ」にして、皆さんとともにつくっていきたくと思います。

(二〇一七・六・一三)

事業活動計算書

(自) 平成28年4月1日 (至) 平成29年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収 益	障害福祉サービス等事業収益	359,969,930	352,786,496	7,183,434
		経常経費寄附金収益	125,000	158,036	△ 33,036
		サービス活動収益計(1)	360,094,930	352,944,532	7,150,398
	費 用	人件費	250,685,488	239,905,103	10,780,385
		事業費	51,559,623	52,537,552	△ 977,929
		事務費	9,993,005	9,494,234	498,771
		減価償却費	29,141,008	26,484,227	2,656,781
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 13,820,076	△ 13,123,065	△ 697,011
		サービス活動費用計(2)	327,559,048	315,298,051	12,260,997
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		32,535,882	37,646,481	△ 5,110,599
増減の部	収 益	受取利息配当金収益	17,321	42,893	△ 25,572
		その他のサービス活動外収益	7,152,497	7,558,018	△ 405,521
	サービス活動外収益計(4)		7,169,818	7,600,911	△ 431,093
	費 用	支払利息	0	27,400	△ 27,400
		その他のサービス活動外費用	4,070,615	4,027,384	43,231
サービス活動外費用計(5)		4,070,615	4,054,784	15,831	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		3,099,203	3,546,127	△ 446,924	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		35,635,085	41,192,608	△ 5,557,523	
特別増減の部	収 益	施設整備等補助金収益	0	25,799,000	△ 25,799,000
		固定資産受贈額	0	120,000	△ 120,000
		特別収益計(8)	0	25,919,000	△ 25,919,000
	費 用	固定資産売却損・処分損	1	269,383	△ 269,382
		国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	0	△ 161,000	161,000
		国庫補助金等特別積立金積立額	0	25,799,000	△ 25,799,000
特別費用計(9)		25,907,383	990,003	24,917,380	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		△ 1	11,617	△ 11,618	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		35,635,084	41,204,225	△ 5,569,141	
増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	221,331,931	190,127,746	31,204,185	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	256,967,015	231,331,971	25,635,044	
	基本金取崩額(14)	0	0	0	
	その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	
	その他の積立金積立額(16)	22	10,000,040	△ 10,000,018	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	256,966,993	221,331,931	35,635,062	

貸借対照表

平成28年3月31日現在

資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	199,645,260	222,392,143	△ 22,746,883
現金預金	140,414,697	142,697,856	△ 2,283,159
事業未収金	57,949,083	79,588,376	△ 21,639,293
立替金	32,400	50,403	△ 18,003
前払費用	1,199,080	0	1,199,080
仮払金	50,000	55,508	△ 5,508
固定資産	608,799,819	624,938,810	△ 16,138,991
基本財産	478,206,495	501,209,023	△ 23,002,528
建物	478,206,495	501,209,023	△ 23,002,528
その他の固定資産	130,593,324	123,729,787	6,863,537
建物	24,504,200	25,357,880	△ 853,680
建物附属設備	2,105,428	2,480,404	△ 374,976
構築物	8,101,885	3,083,991	5,017,894
車輛運搬具	2,658,792	3,869,717	△ 1,210,925
器具及び備品	12,226,647	10,738,285	1,488,362
建設仮勘定	431,400	0	431,400
退職給付引当資産	19,891,418	17,525,978	2,365,440
人件費積立資産	7,000,000	7,000,000	0
修繕積立資産	50,000,000	50,000,000	0
備品等購入積立資産	3,500,098	3,500,098	0
退職慰労積立預金	173,456	173,434	22
資産の部合計	808,445,079	847,330,953	△ 38,885,874

資金収支計算書

(自) 平成28年4月1日 (至) 平成29年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収 入	障害福祉サービス等事業収入	343,039,000	359,969,930	△ 16,930,930
		経常経費寄附金収入	100,000	125,000	△ 25,000
		受取利息配当金収入	14,000	17,321	△ 3,321
		その他の収入	6,000,000	7,152,497	△ 1,152,497
		事業活動収入計(1)	349,153,000	367,264,748	△ 18,111,748
	支 出	人件費支出	239,830,000	248,320,048	△ 12,810,048
		事業費支出	53,860,000	51,559,623	995,377
		事務費支出	10,513,000	9,993,005	6,839,995
		支払利息支出	28,000	0	28,000
		その他の支出	4,000,000	4,070,615	△ 70,615
事業活動支出計(2)		308,926,000	313,943,291	△ 5,017,291	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		40,227,000	53,321,457	△ 13,094,457	
に施よ設る整備収支等	収 入	施設整備等収入計(4)	0	0	0
		固定資産取得支出	9,800,000	10,636,556	24,363,444
	支 出	施設整備等支出計(5)	35,000,000	10,636,556	24,363,444
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 35,000,000	△ 10,636,556	△ 24,363,444
		積立資産取崩収入	0	568,700	△ 568,700
にそのよ他の収支	収 入	その他の活動収入計(7)	0	568,700	△ 568,700
		積立資産支出	12,456,000	2,934,162	9,425,838
	支 出	その他の活動支出計(8)	12,360,000	2,934,162	9,425,838
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 12,360,000	△ 2,365,462	△ 9,994,538
		予備費支出(10)	0	—	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 7,133,000	40,319,439	△ 47,452,439	

前期末支払資金残高(12)	133,666,000	154,430,526	△ 20,764,526
当期末支払資金残高(11)+(12)	126,533,000	194,749,965	△ 68,216,965

負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	4,895,295	67,961,617	△ 63,066,322
事業未払金	4,067,321	67,132,961	△ 63,065,640
職員預り金	827,974	828,656	△ 682
固定負債	19,891,418	17,525,978	2,365,440
退職給付引当金	19,891,418	17,525,978	2,365,440
負債の部合計	24,786,713	85,487,595	△ 60,700,882
純 資 産 の 部			
基本金	179,097,106	179,097,106	0
第1号基本金	163,080,910	163,080,910	0
第3号基本金	16,016,196	16,016,196	0
国庫補助金等特別積立金	286,920,713	300,740,789	△ 13,820,076
その他の積立金	60,673,554	60,673,532	22
人件費積立金	7,000,000	7,000,000	0
修繕積立金	50,000,000	50,000,000	0
備品等購入積立金	3,500,098	3,500,098	0
退職慰労金積立金	173,456	173,434	22
次期繰越活動増減差額	256,966,993	221,331,931	35,635,062
(うち当期活動増減差額)	35,635,084	41,204,225	△ 5,569,141
純資産の部合計	783,658,366	761,843,358	21,815,008
負債及び純資産の部合計	808,445,079	847,330,953	△ 38,885,874

平成28年度決算報告

男子棟 春の遠足

今年も毎年恒例の遠足へ行ってきました。行き先は、雨山の松籟公園。今年も外部からボランティアの方も来て下さり、利用者さんと一緒にそれぞれのグループに分かれて歩いて目的地を目指しました。去年は前日の雨の影響で急遽場所を変更しましたが、今年も天気に恵まれ、予定通り実施する事ができました。歩きやすい気候で、全グループが無事到着できました。大きなシートを広げて豪華なお弁当を「いただきます！」。食べ終わった後は、ゆっくり過ごす人もいれば、アス



レチックで遊ぶ人もおり、それぞれ遠足を楽しまれました。来年も天気に恵まれるといいですね！



女子棟 春の遠足

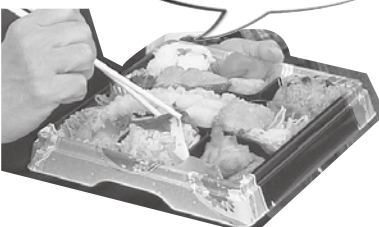
四月、新年度に入り利用者さんも少しずつ落ち着かれてきた頃、最初の行事である『春の遠足』が開催されました。行き先は様々でしたが今年もは落穂寮全体で同日の遠足となりましたので、女子棟はお隣の一麦さんよりマイクバスをお借りし、水口スポーツの森を目指して出発！ほんのり雲がかかっていますがお天気も何とか持ちこたえ、お花見シーズンも過ぎていたのですがよく見るとまだ桜の花もポツポツと残っています。到着してからお弁当までの時間



は各々でお腹を空かせる準備に入ります。大きな公園なので丘の上まで散策したりローラー滑り台等の遊具を堪能したりと、それぞれの趣味嗜好に合わせた時間を過ごせました。お昼も近付き皆さんお待ちかねのお弁当タイム。大きなブルーシートの上で座りお弁当を開けてみると、今年も豆ご飯やかやくご飯などが入った3色幕の内弁当。これには利用者さんも職員もたまらず「いただきます！」と美味しく舌鼓を打ちました。新年度に入って新しくなった担任や職員と関わり、共に楽しく過ごせた春の遠足。今年も一年よろしくお願



花より団子♡



氏神祭



今年の氏神祭りは、あいにくの雨にみまわれ：（朝は晴れていたのですが）残念ながら中止となりました。利用者さんは法被にはちまきと準備を整え、御神輿を担ぐ気満々で事務所前に集合されたのですが、空のご機嫌がかなりあやしく、そうこうしている間にゴロゴロピカッと突然の雷と大雨が…。本当に残念です（涙）

ここで今年の落穂寮の御神輿を紹介しておきましょう。デザインは、ミッキーとプーさんのツムツム御神輿がとても可愛く仕上がったんですよ。見て下さい、利用者さんと一緒に担ぎました。来年は良い天気になりますように。その後、棟へ戻ってジュースを美味しくいただきました。利用者さんでした。



行きたかったな～



通所 + α

春の遠足

男子棟や女子棟と同じ日に、普段支援棟にて一緒に昼食をとっているメンバーで遠足に行きました。遠足といっても、体力や身体能力がバラバラのメンバーになるので、目的地までは快適に車で行かせてもらいます。行き先は鹿深夢の森。普段は小さい食堂で少人数で食べていますが、今日は利用者職員合わせて11名で、とても見晴らしの良い広場でおいしいお弁当をいただきました。

暑くもなく寒くもない過ごしやすいお天気で、食欲も進み普段の量よりも多いお弁当をあつという間に平らげ、丘の下までお散歩したり、長い滑り台を楽しんだり、いつもの空間とは違った世界を見ながら楽しい時間が過ごせました。通所の4名については、普段一緒に過ごす時間が短いため、外出先で見せて下さる顔に驚かされることもありましたが、笑顔がたくさん見られた外出になりました。



石部中 ふれあい交流

2017 春



6月に石部中学校の一年生がふれあい交流に来てくださいました。初めて会う利用者さんを前に少し緊張気味の中学生でしたが、みんなで集まってあいさつをするとならずつ笑顔も見られました。

今回は午前の歩行と一緒に参加してもらいました。緊張しながらも手をつないで利用者さんにペーソの姿が印象的でした。

限られた時間の中での交流でしたが、学生さんたちはどんなことを感じたのでしょうか。普段接することのない人との関わりは学生さん、利用者さん共に良い刺激となったと思います。

また秋の交流会で会えるのを楽しみにしています。ありがとうございます。ありがとうございました。

来る者いれば 去る者もいる：

雨の日も風の日も雪の日も：通所メンバーの足となり送迎車として毎日頑張つて走つてくれたエブリイがリースアツプを迎え、世代交代をしました。走行距離10万キロを超え、本当によく頑張つてくれました。

そして、去る者がいれば来る者もいます。これまたエブリイです。乗つてみれば旧エブリイとの違いは歴然ですが、見るだけではよく違いが分からないですが、よければ二つの違いを見つけてみてください。

これから送迎などに酷使されますが、強くたくましく走つてもらいたいです。



ここ数年、生活棟の傍で巣を作ることがなかったのですが、今年は男子棟横に3つもつばめの家族が巣をつくり、子育てをしていました。つばめの家族にとって利用者さんの傍が安心できる環境であると思うと嬉しいものですね。

幸せの 訪問者

泉

平成29年度が始まりました。今年も落穂寮をよろしくお願ひします。さて、昨年度から話が出ていたスプリンクラーの設置工事がスタートし、今号が発行される頃には工事もう完了しているはず。

これで万が一、火災が起きた際の利用者さんの安全もこれまでより守られることになり、同時に職員もより安心して勤務することができるようになります。一番怖いのは夜間の火災で、落穂寮では3名の職員で50人を避難誘導しなくてはなりません。

敷地内に住む職員が駆け付けることになっていますが、もしものことを考えると心許ないのが現実です。「火事だ、逃げろー」と誰かが叫んだとして、自力で逃げ出せる人が一体何人いるのか考えるとスプリンクラーの設置も必然だったのかもしれない。また、同時期に防災倉庫も設置され、落穂寮の安全度は大きく向上したのではないかと思います。自然災害を防ぐことは難しいですが、火災や事故は日々の安全意識次第であることを肝に銘じていきたい所です。

木 こと
言 こと
芽を出して
花を咲かせて実をつける
実は種になり
種が芽を吹く
続いている
繋がりがら